



人口減少時代の自治体レベルの医療政策

健康開発学科 健康情報学専攻

古城 隆雄 教授

【研究分野】 医療政策、政策疫学

【キーワード】 へき地医療、オンライン診療、人口減少、データヘルス、医療費適正化、

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pid=370kojo>



研究概要

医療政策に関する研究を幅広く行ってきました（医療保障の理念、医療費適正化、人口減少地域・へき地の医療提供体制・オンライン診療、データヘルス等）。人口減少が進む中、住民の健康を維持増進する観点から、自治体の医療政策に強い関心を持って、研究を行っています。

研究紹介

1. へき地におけるオンライン診療の活用

山口県立総合医療センターへき地医療支援センターが発刊している

「へき地におけるオンライン診療の手引き」に関わっています。

山口県薬務課から姉妹版の服薬指導の導入の手引きも発刊されています。



2. 発症前の予防行動は適切だったか？

脳卒中や心筋梗塞などの重症疾患を発症された患者が、発症前に適切な予防行動（特定検診の受診、医療機関への受診）を行っていたのかを分析しています。自治体のデータヘルス計画に必要な分析についても研究しています（神奈川県平塚市と共同研究）。

3. 医療費適正化の重点対象者に関する研究

本来の医療費適正化は、単なる医療削減・抑制ではなく、住民の健康維持・増進のための重点的な医療資源の配分と効率化です。健診やレセプトデータを連携させ、住民の健康維持の観点に立った解析方法について研究しています。

4. 医療政策の理念に関する研究

適切に政策課題を設定するためには、医療政策の理念が必要になります。憲法論・現代正義論を土台に、医療政策の理念に関する著書（共著）を発刊しています



講座テーマ紹介

ご要望に応じて、柔軟に検討させていただきます。

- ・自治体職員、保健師のための、行政データの利活用の方法
- ・医療や介護に関する制度・政策の説明
- ・住民の健康を守るために医療費適正化
- ・人口減少時代の医療提供体制、へき地におけるオンライン診療の活用など

アピールポイントなど

- ・都道府県、自治体、民間企業との共同研究や委員活動に注力しています。
- ・介護施設の運営にも10年以上関わっています。
- ・都道府県、市町村の行政官、保健師の問題意識、行動で大きく政策は変わります。課題解決のための調査や研究、委員会等、役に立てることがあればご相談ください。